

SDGsと済生会

院長 林 田 良 三

SDGs (エス・ディー・ジーズ) という略語やドーナツ状のカラフルなバッジ (写真) を最近、よく目にするようになりました。SDGsとは Sustainable Development Goalsの略語で「持続可能な開発目標」という意味です。2015年9月の国連サミットで世界のすべての国が2030年までに達成すべき17の目標を掲げたものです。

- 目標① 貧困をなくそう
- 目標② 飢餓をゼロに
- 目標③ すべての人に健康と福祉を
- 目標④ しつの高い教育をみんなに
- 目標⑤ ジェンダー平等を実現しよう
- 目標⑥ 安全な水とトイレを世界中に
- 目標⑦ エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 目標⑧ 働きがいも経済成長も
- 目標⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 目標⑩ 人や国の不平等をなくそう
- 目標⑪ 住み続けられるまちづくりを
- 目標⑫ つくる責任つかう責任
- 目標⑬ 気候変動に具体的な対策を
- 目標⑭ 海の豊かさを守ろう
- 目標⑮ 陸の豊かさも守ろう
- 目標⑯ 平和を公正をすべてのひとに
- 目標⑰ パートナリーシップで目標を達成しよう

これら17の目標はそれぞれが相互に密接に関連しています。例えば、開発途上国がかかえる貧困、飢餓、健康、福祉、教育といった問題はインフラが整備され、経済成長による雇用、産業革新があってはじめて達成されるものです。また地球規模の気候変動による異常気象は自然災害に脆弱な開発途上国の目標達成に深刻な影響をもたらしています。開発途上国、先進国を問わず世界中の国々が政府が企業が各種団体が地域がそして一人一人の個人が取り組まなければ達成できない目標

です。

そしてこれらの目標の根底にある重要な理念は「誰一人置き去りにしない世界を目指す」ということです。ソーシャルインクルージョン、社会的包摂と訳されるこの考え方は済生会が最も大事にしている理念そのものです。全国の済生会病院が実施している生活困窮者への無料低額診療や刑余者、障害者、子供などの社会的弱者への支援事業、開発途上国への医療支援、最近始まったイオンモール社との連携による「まちづくり」への寄与などすべてがソーシャルインクルージョンの理念に基づくものです。同じ理念に基づくSDGsの17の目標は済生会にとって受け入れやすく、中期事業計画はこれらの目標とリンクさせて作られています。

今、世界では自国第一主義や移民への排他的政策が台頭し、日本でも同様に考える人の割合が増えていると言われています。自分と異なる者や多様性への不寛容さはグローバル化が進んだ時代にあってはやがて自分に跳ね返ってきます。SDGsの17の目標は世界中の異なるもの同士の理解、共有、連携がなければ達成できません。持続可能で誰も置き去りにしない未来は私達、一人一人の思いや行動に委ねられていると思います。



SDGsバッジ (カラーホイールバッジ)
バッジに使われている17色はSDGsの17の目標を意味しています。

